

～クラシックコンサートを楽しむために～

文化会館に来館されるお客様に、クラシックコンサートをお勧めすると「クラシック音楽は、敷居が高くて難しそう！」「聴きに行きたいけど鑑賞マナーってあるの？」「楽しみ方がよくわからない！」そんなお言葉が返ってくるのが良くあります。

確かに客席で決して広くない椅子に座り、静かに音楽に聴き入る、さらにあまり聴き慣れない曲を長時間聴き続けることにけっこう苦痛？を感じることはあるかもしれません。

でも小中学校で習ったベートーヴェンやモーツァルトなどの有名な作曲家の作品やCMで流れてくる名曲となれば別で、「この曲知ってるよ」とか「ライブで聴くとカッコいいな！」など聴く方もウキウキ楽しくなるのも事実ですよ。

ある程度知っている曲ですと「これからどんな展開になるか、どこがサビなのか、またどの辺でクライマックスになるか」などわかりますし、それを思い浮かべながら音楽を聴くことも楽しみ方のひとつとも言えます。

映画やドラマでは、結末がわかってしまっただけでは、何の面白味もありませんが、知らない曲をライブで初めて聴く場合には、好きな作曲家の作品だとか曲調がいいということはあっても意外と不安だったりすることもあるでしょう。

プログラムに知らない曲があった場合、どんな曲かを予習？しておくこともいいのかもしれませんがね。最近ではネットで試聴できるサイトもありますし、一応どんな曲かチェックしておくのも策のひとつだと思います。

いずれにせよ、ライブではそれぞれの楽器の奏でる音色に耳を傾け、「悲しい」「寂しい」「嬉しい」「悲しむ」「喜ぶ」「驚く」「恋しい」「せつない」など、音楽の感情を心で聴きながら楽しんでみてはいかがでしょうか？こう楽しむべきだということは決してないと思います。

クラシック音楽のエキスパートやよっぽどのクラシック通でなければ、一度聴いてその曲の善し悪しがわかるわけでもなく、要はシンパシーが大事だと思います。

クラシックは、昔からヒーリング音楽として精神や心の安定に良いとされ親しまれていきますし、音楽に限らず、普段から文化芸術に親しむことで、より感性が磨かれ、また人生を豊かにしてくれることと思います。

ここではクラシックコンサートの鑑賞マナーについて、本やインターネットなどで紹介されているごくごく一般的なものを集めてみましたのでご参考にさせていただき、クラシック演奏会に出かけられる機会を作られてはいかがでしょうか？

<クラシックコンサートにおける基本マナー>

1. 飲食

客席での飲食は、ほとんどのホールで禁止されています。
演奏中に飴やお菓子を食することはマナー違反となります。
飴を袋から出すカサカサ音や匂いのある直前の食事でもコンサートの雰囲気壊しかねません。

2. 携帯電話やアラーム付き腕時計

演奏中に、携帯電話のベルが鳴り響いたらそれはもうひんしゅくを買います。本番前のアナウンスでも必ずお願いが入りますので十分気をつけましょう。またバイブモードであってもシ〜ンとした会場内では意外と音が響きます。必ず電源を切りましょう。

3. 遅刻

クラシックコンサートは、遅刻厳禁と言われています。演奏が始まってからの入場は原則できないのが普通です。ホールによっては、二部制のコンサートの場合、一部が終わるまで自席に座ることができないこともあります。最後方の指定の席に座らせられることもあるのです。
当館でも遅刻された方は、曲間にご入場いただいておりますが、場合によっては演奏が終わるまで指定の場所でお聴きいただくことがありますのであらかじめご了承ください。
それだけクラシックは音を大事にするコンサートですので、できるだけ遅刻をしないよう心掛けましょう。

4. 花 束 (差し入れ)

会場内に花束を持ち込むことは禁止されています。

これは花のラッピング (セロハン) が音を出すのを防ぐためです。

当館でも花束受付を設けていますので、ご利用ください。

よっぽど親しい方以外は楽屋に通したりすることはありません。通常はお預かりした花束・差し入れ等は音楽事務所やマネージャーを通して本人にお届けしています。

なお、音楽教室や学生などのアマチュアコンサートでは、直接ステージ渡しもよく見かけますがプロの演奏者の場合は、制限されている場合がほとんどです。

5. 休 憩

通常のコンサートでは、大体15～20分の休憩時間が設けられています。

どうしても混むのが女性用のトイレです。待ち時間だけで次の演奏が始まってしまうことも。

「3. 遅刻」でもお話しましたが、会場にはできるだけ早く到着し、トイレも済ませておくなど余裕をもって開演までお待ちになることが大事です。

6. 入場制限

コンサートによっては、未就学児のご入場をお断りする公演も少なくありません。

このような案内がある場合には、ルールを守りましょう。

「うちの子どもは、ピアノも習ってるし、よその子とは違い静かにしています。」と言ってチケットを求めのお客様も時折ありますが、公平・公正の観点からもご入場はできません。

7. 服 装

基本的に服装によって入場できたり、断られたりということはありません。

但しクラシックコンサートにTシャツや短パンでは、ちょっといかなものかなと思います。

1席1万円以上するようなコンサートや都心の会場に行く場合は、必然的に洒落をして行くのが普通ですよね。

いずれにせよ、TPOに合わせた服装は、コンサートに限らず大事なことです。

ただひとつ気をつけたいことは、香水のつけすぎです。せっかくの良い匂いも付けすぎると悪臭となりコンサートの雰囲気壊しかねません。

8. 拍 手

クラシックは、拍手のタイミングが分かりづらいという方も多いと思います。

基本は、演奏者と指揮者が舞台に出てきたときと演奏終了後ですが、難しいのは楽章と楽章の間です。終わったと思って拍手したら、一人だけだったなんてことも。

クラシックコンサートには必ずクラシック通の方がいるものです。そういう方は当然のように拍手のタイミングを知っています。知ったかぶりをせず、そういう方々の拍手が始まってから遅れて拍手しても問題ありません。それも勉強です。

9. その他

ここまで書くと「やっぱりクラシックは、面倒だな」と思われるかもしれません。

でも日本の伝統文化もそうであるように、そもそも文化芸術を味わうことはそれなりの面倒くささがつきものとするのも自然なことではないでしょうか？

要は、ルールやマナーを守ってこそ素晴らしい感動があなたを待っていると思います。

これからはちょっと洒落をして、優雅なクラシックコンサートに出かけてみませんか。

戸田市文化会館ではこれからも素敵なアーティストをお迎えし、実演芸術の素晴らしさをお届けしてまいりますので、ご来場を心からお待ち申し上げております。

平成24年11月

戸田市文化会館